

科目名	運動学								
英文科目名	Kinesiology								
担当教員	山崎敦								
授業形態	講義								
学年	1 年	クラス	2	開講学期	後期	単位区分	選択	単位数	1
ディプロマポリシー	個人、家族および地域社会の人々に対して、それぞれの健康レベルに応じて専門的知識と技術を駆使して、エビデンスに基づいた看護を実践ができる。 / 看護専門職としての機能の発揮に努め、関連分野の人々と連携・協働できる。								
授業の目的・到達目標	【一般目標】 生物学や物理学、さらには解剖生理学などの基本的知識に基づき、身体運動の基本事項について学ぶ。その上で、運動器に関する基本事項を理解することが到達目標である。 【行動目標】 1. 運動器を中心とした解剖生理学的知識を整理して、その概要を説明できる。 2. 姿勢や歩行、移乗動作などのバイオメカニクスの基本的知識を学び、その概要を説明できる。								
授業概要	第01回 運動学総論 第02回 骨の構造と機能 第03回 関節の構造と機能 第04回 神経系の構造と機能1 第05回 神経系の構造と機能2 第06回 骨格筋の構造と機能1 第07回 骨格筋の構造と機能2 第08回 運動のバイオメカニクス								
学習課題 予習・復習	第1回目の予習として、日常の運動と重力の関係を考えておくこと。 復習としては、事前に配布している関連領域の国家試験問題を実際に解いてみること。 第2・3回目の予習として、解剖学のテキストの骨・関節の項を読み、知識の整理を行うこと。 復習としては、事前に配布している関連領域の国家試験問題を実際に解いてみること。 第4・5回目の予習として、解剖学のテキストの神経系の項を読み、知識の整理を行うこと。 復習としては、事前に配布している関連領域の国家試験問題を実際に解いてみること。 第6・7回目の予習として、解剖学のテキストの骨格筋の項を読み、知識の整理を行うこと。 復習としては、事前に配布している関連領域の国家試験問題を実際に解いてみること。 第8回目の予習として、第2～6回目の授業内容を復習しておくこと。 復習としては、事前に配布している関連領域の国家試験問題を実際に解いてみること。 * 1回の授業に対する予習・復習時間は、合計で4時間程度とする。								
授業方法	Power Point を用いた講義（一部簡単な実技を実施）								
成績評価の基準	筆記試験（マークシート形式）								
教科書	9784260046879 坂井建雄、岡田隆夫、宇賀貴紀：系統看護学講座 専門基礎 人体の構造と機能1 解剖生理学 第11版 医学書院、2022.								
参考書	9784758102582 山崎 敦：PT・OT ビジュアルテキスト専門基礎 運動学 第2版 羊土社、2022. 9784260000208 伊東 元・他（編）：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 運動学、医学書院、2012. 9784896326864 医療情報科学研究所（編）：病気がみえる vol.7 脳・神経、メディックメディア、2017. 9784830602313 大地陸男：生理学テキスト第9版 文光堂、2022.								
実務経験のある教員による授業									
実務経験の内容	-								
実務経験の当該科目への活用	-								